



平成22年7月
山陽小野田市にて
水害復興支援活動。

山口曹青の ココが すばらしい!

山口曹青の素晴らしいところは、幅広い活動が行えること、そして会員の参加が多いこと、県の御寺院様、OBの皆さんの理解・協力が大きいことです。

先にも書きましたように、昨年は豪雨によって防府、山口、山陽小野田に災害が発生しました。現地を調査し被災された方々を目の当たりにした時、お盆前という動きにくい時期でありながらも、「放っておけない」とすぐにボランティアに入る事が決定しました。活動は会員だけでなく、OB会員も大勢参加されました。

義援金活動も平行して行いましたが、県内の御寺院様の多くが夏の施食会など集まりの際に檀信徒の皆さんに呼びかけて浄財を募ってくださいました。

その後もボランティアに入ったときのことがよく話題になり、「災害は無いに越したことはないが、もし何かあったらすぐに手伝いに行こう」と多くの会員が異口同音に話しています。

緊急の活動でしたので取り組んでいるときには様々な心配が

ありましたが、会員やOBの皆さんの協力で乗り切ることができました。終わってみたとき改めて、会員の意識の高さ、そして県内のご寺院の皆さんの心の広さ・温かさを感じました。これは先般の事例ですが、こういった緊急支援のみに関わらず、普段の行事や活動においても同様です。

山口曹青の ココが課題だ

現在取り組んでいる、またこれからも取り組んでいきたいのは連絡体制の強化です。中でも次の二つを課題にしています。

一つ目は、会員同士・協力団体との連絡です。会務を行って思うのですが、連絡というのは本当に難しいものです。連絡が少なすぎると様子が分からないし、連絡が多すぎると煩わしくなる。ほどよい連絡を継続していくことは困難です。

日常的には執行部・理事へはメール・リングリストを利用して行っていますが、役のない会員へは郵送で案内を送っています。通常はこれで十分なのですが、いざ緊急事態となるとこれでは間に合いません。活発な活動が行われていても、そのことを知らないために参加できなかつた経験をもつ会員は少な

くありません。

二つ目はノウハウの伝達です。行事を計画立案する方法、準備を行う手順や注意点などは、その役を受けた一部の人のみしか伝わりません。しかしこういつたノウハウは曹青活動のみならず、寺務で必ず役に立つものです。それを伝えていく方法を見つけたいと考えています。

現在行なわれている事、またどうやったらそれができるのか、これは知っているのと知らないのでは天地の隔たりがあります。皆の糧となるよう取り組んで行こうと思います。

ろうせいサポーターズより



曹洞宗山口県宗務所 所長
吉川俊雄 老師

我が県に於いても曹青の皆様を抜きにして教化活動を語ることができません。曹青の皆さんに足を向けて寝られないという言い過ぎかもしれませんが、本当にそんな思いであります。是非これからもっともっと動いて欲しいですね。手を動かし、足を運んでください。これから鏝湯・炭の厳しい局面があろうとも、1にも2にも3にも動いて清風を起こしてください。これからの活躍を一層期待しています。

NPO法人シャンティ山口
代表理事

角 直彦

「ともに菩薩行の実践を」

永年に亘り当会に対し、青年会としてのボランティア活動に協働して頂き、有難うございます。今後ともさらに、会員各位が菩薩行の実践をしているという「自覚」を持ち、宗教活動の精神的「柱」にされ、社会と共に歩む寺院活動をされることを願っています。貴会、また会員各位のますますの活動向上を祈念します。 合掌

■シャンティ山口の活動については、ホームページをご覧ください。

災害復興支援について



山口県曹洞宗青年会 会長
大野泰生

2年続けた災害に多くの方々から物心両面でご協力を頂き心より感謝申し上げます。現場に入る時には不安もありましたが、全国から集まっているボランティアの方から「曹洞宗がまた来てくれた」と歓迎され、これまで各地で活動している姿が受け止められていることを感じました。今期からボランティアに入るかどうかは各曹青会に任されています。決断の難しいときもあるでしょうが「苦しんでいる人の為に動く」曹青でありたいと思っています。